

実践例「学習指導の充実・深化」

「課題7 学ぶ意欲を高める指導方法の改善・充実」

I 学校名 釧路町立知方学小学校



II 研究の概要

1 研究主題

「わかる」「できる」をめざして主体的に学ぶ子どもの育成
～算数科のねらいを大切に「思考力」「表現力」を育てる複式授業づくり～

2 研究領域・研究の年次計画

(1) 研究領域 算数科

(2) 研究の年次計画

1年次（平成27年度） 構想・計画・実践	2年次（平成28年度） 実践・検証・定着	3年次（平成29年度） 深化・評価・まとめ
・学びの見通しをもち、進んで学習に取り組むことができる子どもを育てる。 ※理論研究、授業実践、まとめ、反省	・問題にしっかりと向き合い、思考し、表現することができる子どもを育てる。 ※理論研究、授業実践、まとめ、反省	・友達の考えと自分の考えを比べたり、つなげて話すことができる子どもを育てる。 ※理論研究、授業実践、公開授業、まとめ

3 研究仮説

仮説1

自分の立場を明確にすることによって、友達の考えと自分の考えを比べることができるであろう。

仮説2

伝える言葉を選択させることで、友達の発言につなげて話すことができるであろう。

4 研究内容

＜目指す子ども像＞

「問題にしっかりと向き合い、思考し、表現することができる子ども」

- ・問題を読み、絵や図に表すなど、自分なりの方法で問題を解いていこうとする姿
- ・問題解決に向けて思考する過程を、みんなに伝えようとする姿

今年度は、2年次までの成果と課題を土台にして、基礎・基本の定着をめざしたシンプルな複式授業づくりを土台に、算数科の複式授業を通して、子ども達に「思考力」「表現力」をどのように育てていくか、それらの実践を重ね、検証することで、日常の授業改善

に取り組んでいく。しかし、あくまでも、算数の基礎・基本を子ども達に定着させることが何よりも大切であり、「思考力」「表現力」をのばすことは、「主体的に学ぶ子どもを育てる」ための手段のひとつであることをおさえ、研究をすすめていく。

研究内容1 ※仮説1に関わって

- ・主に間接指導時において子ども達が個々に思考できるような課題設定をする。
- ・課題を明確にし、発問をよりわかりやすく伝えることで、自分なりの考えがもてるようにする。
- ・困ったときに手立てとなる掲示やヒントを準備することによって、自力解決をしやすいようにする。
- ・単元内での思考の手立ての明確化（パターン化）をすることで、スムーズに個人思考に取り組めるようにする。

研究内容2 ※仮説2に関わって

- ・主に直接指導時に自分の考えを自分の言葉で伝えられるようにする。
（学年によっては間接指導時も考えられる）
- ・内容に応じて、自分の考えを整理する方法の多様化・焦点化を工夫し、個々の考えを整理しやすい方法を取り、自分の考えを整理しやすいようにする。
（ワークシートの工夫、ノートの整理など）
- ・教師が子ども達の考えをつなぐ展開を工夫することによって、他の考えとつなげて自分の考えの良さに気がついたり、考えを深めたりできるようにする。
（子ども達同士の展開も考えられる ※間接時）
- ・集団（全体）解決の前に必要に応じて少人数やペアでの話し合いなどを工夫して設定することによって、自分の考えに自信が持てたり、自信をもって発表する姿につながったりすることができる。

5 研究実践

(1) 基本目標

学校課題「自分の良さを生かし 心豊かでたくましく 実践力のある子ども」を育てる教育活動創造のため、全職員の共通意識にたった校内研修の推進と充実を図る。

(2) 基本方針

- ①課題解決・検証のため、授業研究の充実を図る。
- ②研究の充実のため、計画・組織などの適切な運営を図る。
- ③現職研修として、事例研究の企画や研究会等の参加を通して本研究への環流を図る。
- ④教職員の指導改善・資質向上のため、校内研修の充実を図る。

(3) 具体的活動計画

- ①研修推進～研究計画の樹立・研究時間の設定と調整（毎週水曜日2：45～）
- ②理論研修～研究内容に関わる理論研究とその実現化
- ③授業研究～検証を図る授業研究の企画・実践・授業記録・授業研究の集約
- ④実技研修～実技研修の企画・依頼
- ⑤指導主事訪問の予定～要請の視点の明確化・学校訪問連絡票・学校訪問指導記録の作成
- ⑥各種研究会案内や研究資料の提示～研究会案内の回覧、集約申し込み・研究会参加報告による交流
- ⑦複式部との交流～複式授業交流会の実施・全道へき地複式教育研究大会への協力

Ⅲ 実践例

第 1 ・ 3 学 年 算 数 科 学 習 指 導 案

日 時 平成 29 年 1 月 8 日 (水) 5 校 時
場 所 釧路町立知方学小学校ポケット教室
児 童 第 1 学 年 1 名 第 3 学 年 1 名
授 業 者 教 諭 駒 谷 朋 美

1 単元名 「ひきざん」

2～5 省略

6 本時の学習計画

(1) 目標

○減数が 7、6、5 の場合でも、10 のまとまりから 1 位数をひけばよいことを理解する。(知識・理解)

(2) 本校の研究主題および仮説について

①②省略

③本時での研究とのかかわり

<仮説 1>にかかわって

☆<思考力>…自分で考え、解決できたという達成感を味わい、学習の自立をめざす。
(自分の立場を明確にとの関連)

○「ブロック操作→説明→さくらんぼ計算」というように、段階をふんだ学習活動を展開することで、自分の考えを確かなものにし、学び方を身につけさせる。

- ・自分でできること(間接指導)と、教師が関わること(直接指導)のすみわけ

<仮説 2>にかかわって

☆<表現力>…自分の考えが相手(教師)に伝えることができたという成就感を味わい、学習の自立をめざす。
(伝える言葉を選択との関連)

○「計算のしかたを説明する型を使って伝えること」「既習をもとに自分の言葉で伝えること」というように、子どもの現時点での実態をとらえ、的確な発問や指示をすることで、表現する力を引き出す。

- ・12-7の計算のしかたの説明(型を使う)
- ・10からまとめてひくことのよさを話す(自分の言葉)

1 単元名 「重さのたんいとはかり方」

2～5 省略

○測定するものに応じて、適切な計器を選択し、重さを測定することができる。(技能)

○「予想(見当をつける)→はかりを選ぶ→はかる(目盛りを読む)→記録する」というように、活動の流れを提示することで、自分でやってみようという気持ちを引き出す。

- ・一つひとつの活動の意味を教える(直接指導)
- ・目盛りの読み方シートなど、一人で活動することができる教具の準備(間接指導)

○「はかりを選んだ理由」「見当をつけるわけ」を子どもに問うことで、自分の言葉で考えを表現する力を引き出す。

- ・既習(与えられたはかりを使っていた)と未習(はかりを選ぶ条件の確認)のちがい
- ・はかりを選ぶために、例示された重さと直接比較をして、見当をつけることが大事であることを話す

(3) 本時の展開

第1学年 (本時5 / 13)		直接指導	第3学年 (本時8 / 11)	
主なはたらきかけ	学習活動		学習活動	主なはたらきかけ
<ul style="list-style-type: none"> 今日の学習内容を提示しておく。 既習事項から、「2から7はひけないこと」「10のまとまりからひくこと」をおさえる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> $12 - 7$のけいさんのしかたをかんがえよう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> 書いたあと、机上进行整理させる。 これまで学習したブロック操作を掲示しておく。 説明に困ったら、「計算のしかた説明シート」を提示する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> ブロックを操作しながら、$12 - 7$の計算のしかたを、順序よく説明することができる。 【知識・理解：観察、発表】 </div> <ul style="list-style-type: none"> ブロック操作の説明シートを使い、さくらんぼ計算に表していく板書をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> $\begin{array}{r} 12 \\ \textcircled{10} \textcircled{2} \\ \hline - 7 \\ \hline = 5 \\ \quad 3 \end{array}$ </div> <ul style="list-style-type: none"> 1問めは、活動の手順を確かめながら、一緒に取り組む。 (①問題を書く ②ブロック操作 ③さくらんぼ計算) <ul style="list-style-type: none"> 2枚のプリントが終わってから、丸つけをして確認する。 自立の要素を取り入れた活動 (指先を使う) (よく見て位置関係を認識する) 	<ul style="list-style-type: none"> ①問題を読む。(P20 6) ②学習することを確認める。 ・これまでの学習を振り返る。 ・今日の学習の見通しをもつ。 ③課題をノートに書く。 ④自分で考えて、答えを求める。 ・ブロックを操作する。 ⑤計算のしかたをブロックを操作しながら説明する。 ⑥学習のまとめをする。 ・さくらんぼ計算でも、計算のしかたを説明する。 ・ノートに書く。 ⑦練習問題 △ の3問に取り組む。 ・$11 - 7$、$13 - 6$、$11 - 5$ ・ブロック操作で答えを求める。 ・さくらんぼ計算でノートに書く。 ⑧「さくらんぼ問題」プリントに取り組む。 ⑨「とけい問題」プリントに取り組む。 ⑩マッチ棒で形をつくる学習に取り組む。 	直接指導	<ul style="list-style-type: none"> ①「かけ算の筆算」プリントに取り組む。 ②「お金の数え方」プリントに取り組む。 ③「数え玉」を使い、数を唱える。 ・100とび、10とびで数える。 ④問題を読む。(P29 △) ⑤学習することを確認める。 ・これまでの学習を振り返る。 ・今日の学習の見通しをもつ。 ⑥課題をノートに書く。 ⑦はかりの準備をする。(目盛りを0にする) ⑧自分で、重さの見当をつけてから、物の重さをはかる。 ・例示された重さと直接比較しながら、重さの見当をつける。 ・はかりを選ぶ。 ・はかりの使い方気をつけて、重さをはかり、ワークシートに記録する。 ⑨学習のまとめをする。 ・はかったものの重さをノートに書く。 ・見当をつけるわけを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> はかりをえらんで、重さをはかろう。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 重さをはかるとき ①よそう ②はかりをえらぶ ③はかる ④きろくする </div> <ul style="list-style-type: none"> ⑩点描写で形をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習したことを記憶しておくために取り組ませる。 ・九九表を掲示して使えるようにする。 位取りを意識して数を表すことができるように取り組ませる。 ・2枚のプリントが終わってから、丸つけをして確認する。 はかりの目盛りの読み方につながる活動を取り入れる。 秤量1kg、秤量2kgのはかりの使い方を確認する。 ・既習とのちがい(適切なはかりを選んでから重さをはかる)を確認する。 書いたあと、机上进行整理させる。 はかりの使い方を掲示しておく。 見当をつけるのは、はかりを選ぶためであることを確認する。 ・活動の手順を確かめながら、1つめは一緒に活動する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 測定するものの重さを予想してから、適切な計器を選び、重さを測定し、記録することができる。 【技能：観察、シート】 </div> <ul style="list-style-type: none"> 学習の足あとをノートに記録する。 自立の要素を取り入れた活動と、次の学習への内容を意識した活動 (よく見て位置関係を認識する) (運筆やていねいな作業) (定規の使い方)